

様式第2号の1－②【(1) 実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※ 専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1－①を用いること。

学校名	大宮国際動物専門学校
設置者名	学校法人シモゾノ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
動物管理 専門課程	愛玩動物看護学科 (3年制)	夜・通信	119単位 (2,430時間)	10単位 (240時間)	
	美容・デザイン学科 (2年制)	夜・通信	64単位 (1,560時間)	7単位 (160時間)	
	美容・スモールペット学科 (2年制)	夜・通信	78単位 (1,725時間)	7単位 (160時間)	
	自然環境・動物飼育学科 (2年制)	夜・通信	74単位 (1,320時間)	7単位 (160時間)	
	ドッグスペシャリスト学科 (2年制)	夜・通信	76単位 (1,770時間)	7単位 (160時間)	
(備考) ()内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校HPにて、実務経験のある教員についての情報を含んだ授業科目の一覧表を掲出。
【 掲出 : <https://www.iac.ac.jp/school-report.html> 】

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2－① 【(2)-① 学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2－②を用いること。

学校名	大宮国際動物専門学校
設置者名	学校法人シモゾノ学園

1. 理事(役員)名簿の公表方法

学校HPにて、理事(役員)名簿を掲出。
 【 掲出 : <https://www.iac.ac.jp/school-report.html> 】

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2025年5月29日 ～ 2029年度 定時評議員会の 終結のとき	組織運営体制への チェック機能・法務
非常勤	株式会社役員	2025年5月29日 ～ 2029年度 定時評議員会の 終結のとき	組織運営体制への チェック機能・法務
非常勤	株式会社役員	2025年5月29日 ～ 2029年度 定時評議員会の 終結のとき	組織運営体制への チェック機能・法務
非常勤	弁理士	2026年5月29日 ～ 2029年度 定時評議員会の 終結のとき	組織運営体制への チェック機能・法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大宮国際動物専門学校
設置者名	学校法人シモゾノ学園

○ 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>○ 教育課程の編成 前年度の教育課程の実施状況等と成果の検証を行い、9月中旬に学内委員と学外委員とで開催する教育課程編成委員会で協議した内容を踏まえた草案を校長会議において本校の教育理念・教育方針・学科目標等と照らし合わせ、次年度の教育課程を編成する。</p> <p>○ 授業計画書(シラバス)の策定 校長会議において確定した教育課程をもとに、各授業科目の教育担当者が1月下旬に授業計画書の草案を作成し、3月上旬の校長会議において策定する。授業計画書には、学生が各授業科目の内容等を理解し、主体的に学べるように授業方法・教育担当者情報・授業概要・授業目標・授業計画・評価方法等を記載する。</p> <p>○ 授業計画書(シラバス)の公表 策定した授業計画書は4月上旬に学校内教職員室に設置し、自由に閲覧されている。また、授業開始時に説明を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	学校内教職員室に設置し、一般の方が自由に閲覧されている。

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- 履修の認定 及び 成績評価 については、「学則」・「学生の手引き」において定めている。

【学則：履修認定】

→ 履修の認定は、試験 等の成績に基づき校長会議の議を経て、これを認定する。

【学則：評価の表示】

→ 試験 等の評価の表示は、優、良、可 及び 不可 とし、可 以上を合格とする。

→ 試験 等の評価については、別に定める。

【学生の手引き：履修の認定 及び 成績評価】

→ 所定の 授業科目 及び 授業時数 の 履修の認定 及び 成績評価 は、定期試験の成績 及び 学習状況（出席率・素行・随時行う試験・レポート・成果物等のいずれか 又は 総合したもの）若しくは そのいずれか に基づいて各授業科目の教育担当者が総合的に評価し、校長は校長会議の議を経てこれを認定する。

→ 成績評価は、100点 満点 で評価し、70点 以上 を以って「合格」とし、69点 以下 を「不合格」とする。但し、技術力を証明する資格の取得判定基準は、100点 満点 で評価し、75点 以上 を以って「合格」とする。

→ 成績評価の表示は、優・良・可・不可の4段階とし、次のとおりとする。
但し、追試験 及び 再試験 の合格点は、70点 以上 とし、合格した者の成績評価の表示は、「可」とする。

→ 優（100～90点）、良（89～80点）、可（79～70点）、不可（69点以下）。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- 成績評価の客観的な指標 については、「学生の手引き」において定めている。

【学生の手引き：成績評価の客観的指標と学習活動の改善指導】

→ 各学期終了後、各学科における成績状況一覧（各学科に所属する学生の成績を集計し、平均を算出して、成績分布状況から各学科内の各学生の成績順位を把握するデータ）を作成して順位付けを行い、総合評価を行う。また、成績下位の学生に対し、学習活動を改善すべく指導を行う。

→ 授業科目の成績評価を100点を満点として点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。

- 成績評価の客観的な指標の公表 については、学校HPにて掲出するほか、学生に配布している「学生の手引き」を用いて説明を行っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

【 掲出： <https://www.iac.ac.jp/school-report.html> 】

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- 卒業の認定方針 については、「学則」・「学生の手引き」において定めている。

【学生の手引き：卒業認定や学位授与についての基本的な方針】

- 人生を生き抜く多様な力 と 自分と周りの命（人生）を大切にする心 を持ち、心豊かに生きて生きる資質を持つ者。
- 人と動物の真の共存共生について、自身の考えを持つとともに他者の多様な考えにも理解を示せる者であり、主体的・積極的に取り組み続けられる者。
- 本校に所定の修業年限以上在学し、所定の 授業科目 及び 授業時数 を履修した者について、校長は校長会議の議を経て卒業を認定し、学位を授与する。また、履修の認定について、試験 等の成績に基づいた厳格な成績評価を行い、校長は校長会議の議を経て、これを認定する。

【学則：卒業】

- 本校に所定の修業年限以上在学し、所定の 授業科目 及び 授業時数 を履修した者 について、校長は校長会議の議を経て卒業を認定する。

- 卒業の認定方針の公表 については、学校HPにて掲出するほか、学生に配布している「学生の手引き」を用いて説明を行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

【掲出：<https://www.iac.ac.jp/school-report.html>】

様式第2号の4－② 【（4）財務・経営情報の公表（専門学校）】

※ 専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	大宮国際動物専門学校
設置者名	学校法人シモゾノ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月上旬に最新情報を学校HPに掲出している。 https://www.iac.ac.jp/school-report.html
収支計算書又は損益計算書	同 上
財産目録	同 上
事業報告書	同 上
監事による監査報告（書）	同 上

2. 教育活動に係る情報

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		動物管理 専門課程	愛玩動物看護学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	140 単位 (2,760時間)	96単位 (1,440 時間)		44単位 (1,320 時間)		
			140 単位 (2,760時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		130 人	0 人	13 人	15 人	28 人	
(備考) ()内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき、実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.」を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.」を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.」を参照
学修支援等
(概要) ○ 各クラスに担任教員を配置し、学生の出席状況の把握・学習支援・就職支援等を個別で行っている。また、必要に応じて、臨床心理士によるカウンセリングを促す等の取り組みを行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
43 人 (100%)	0 人 (0%)	40 人 (93.0%)	3 人 (7.0%)
(主な就職、業界等) ○ 動物関連企業、動物病院、動物業界			
(就職指導内容) ○ 社会人として求められる基礎知識・資質等の教育を行うとともに、個別に就職指導・支援を行っている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ○ 愛玩動物看護師 国家試験 (受験者:41名 合格者:37名)			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
132 人	3 人	2.3 %
(中途退学の主な理由) ○ 健康的事由、経済的事由、進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) ○ クラス担任教員・教職員・臨床心理士等による個別支援を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		動物管理 専門課程	美容・デザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	79 単位 (1,785時間)	39単位 (585時 間)		40単位 (1,200 時間)		
			79 単位 (1,785時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		87 人	0 人	11 人	13 人	24 人	
(備考) ()内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき、実務 経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.」を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.」を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.」を参照
学修支援等
(概要) ○ 各クラスに担任教員を配置し、学生の出席状況の把握・学習支援・就職支援等を個別で行っている。また、必要に応じて、臨床心理士によるカウンセリングを促す等の取り組みを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
40 人 (100%)	0 人 (0%)	40 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） ○ 動物関連企業、ドッグサロン、動物業界			
（就職指導内容） ○ 社会人として求められる基礎知識・資質等の教育を行うとともに、個別に就職指導・支援を行っている。			
（主な学修成果(資格・検定等)） ○ 日本動物福祉職能協会 トリマー 2級、キャットスペシャリスト 2級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86 人	3 人	3.5 %
（中途退学の主な理由） ○ 健康的事由、経済的事由、進路変更等		
（中退防止・中退者支援のための取組） ○ クラス担任教員・教職員・臨床心理士等による個別支援を行っている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		動物管理 専門課程	美容・スモールペット学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	83 単位 (1,800時間)	46単位 (690 時間)		37単位 (1,110 時間)		
			83 単位 (1,800時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		83 人	0 人	13 人	16 人	29 人	
(備考) ()内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき、実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 「様式第2号の3【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.」を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 「様式第2号の3【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.」を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 「様式第2号の3【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.」を参照
学修支援等
(概要) ○ 各クラスに担任教員を配置し、学生の出席状況の把握・学習支援・就職支援等を個別で行っている。また、必要に応じて、臨床心理士によるカウンセリングを促す等の取り組みを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
41 人 (100%)	0 人 (0%)	34 人 (82.9%)	7 人 (17.1%)
（主な就職、業界等） ○ 動物関連企業、ドッグサロン、動物業界			
（就職指導内容） ○ 社会人として求められる基礎知識・資質等の教育を行うとともに、個別に就職指導・支援を行っている。			
（主な学修成果(資格・検定等)） ○ 日本動物福祉職能協会 トリマー 2級、キャットスペシャリスト 2級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86 人	3 人	3.5 %
（中途退学の主な理由） ○ 健康的事由、経済的事由、進路変更等		
（中退防止・中退者支援のための取組） ○ クラス担任教員・教職員・臨床心理士等による個別支援を行っている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士		
文化・教養		動物管理 専門課程	自然環境・動物飼育学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	105 単位 (1,785時間)	90単位 (1,380 時間)		15単位 (405 時間)			
			105 単位 (1,785時間)					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人		88 人	0 人	11 人	8 人	19 人		
(備考) ()内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき、実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。								

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.」を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.」を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.」を参照
学修支援等
(概要) ○ 各クラスに担任教員を配置し、学生の出席状況の把握・学習支援・就職支援等を個別で行っている。また、必要に応じて、臨床心理士によるカウンセリングを促す等の取り組みを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
42 人 (100%)	0 人 (0%)	38 人 (90.5%)	4 人 (9.58%)
（主な就職、業界等） ○ 動物関連企業、ペットショップ、動物園、水族館、動物業界			
（就職指導内容） ○ 社会人として求められる基礎知識・資質等の教育を行うとともに、個別に就職指導・支援を行っている。			
（主な学修成果(資格・検定等)） ○ 日本動物福祉職能協会 動物飼育管理士 2級			
（備考）（任意記載事項） ○ 2025年度生より、「国際海洋・飼育学科」から「自然環境・動物飼育学科」に学科名称の変更を行った。 ○ 卒業生数等に係る数値は、従前学科名称である「国際海洋・飼育学科」の卒業生に係る数値となる。 ○ 中途退学に係る数値は、「国際海洋・飼育学科」及び「自然環境・動物飼育学科」の両学年の在籍者に係る数値となる。 ○ 2026年度における「国際海洋・飼育学科」の卒業生はいない。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
89 人	5 人	5.6 %
（中途退学の主な理由） ○ 健康的事由、経済的事由、進路変更等		
（中退防止・中退者支援のための取組） ○ クラス担任教員・教職員・臨床心理士等による個別支援を行っている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		動物管理 専門課程	ドッグスペシャリスト学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	78 単位 (1,800時間)	36単位 (540 時間)		42単位 (1,260 時間)		
			78 単位(1,800時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		89 人	0 人	11 人	14 人	25 人	
(備考) ()内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき、実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.」を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.」を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 「様式第2号の3 【(3) 厳正かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.」を参照
学修支援等
(概要) ○ 各クラスに担任教員を配置し、学生の出席状況の把握・学習支援・就職支援等を個別で行っている。また、必要に応じて、臨床心理士によるカウンセリングを促す等の取り組みを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
44 人 (100%)	0 人 (0%)	42 人 (95.5%)	2 人 (4.5%)
（主な就職、業界等） ○ 動物関連企業、ペットショップ、しつけ・トレーニング施設、動物業界			
（就職指導内容） ○ 社会人として求められる基礎知識・資質等の教育を行うとともに、個別に就職指導・支援を行っている。			
（主な学修成果(資格・検定等)） ○ 日本動物福祉職能協会 ドッグトレーナー 2級、しつけアドバイザー 2級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88 人	1 人	1.1 %
（中途退学の主な理由） ○ 健康的事由、経済的事由、進路変更等		
（中退防止・中退者支援のための取組） ○ クラス担任教員・教職員・臨床心理士等による個別支援を行っている。		

② 学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料(年間)	その他	備考（任意記載事項）
愛玩動物看護学科	180,000 円	854,000 円	429,000 円	他（施設費・諸費用を含む）
美容・デザイン学科	180,000 円	854,000 円	491,000 円	他（施設費・諸費用を含む）
美容・スモールペット学科	180,000 円	854,000 円	494,000 円	他（施設費・諸費用を含む）
自然環境・動物飼育学科	180,000 円	854,000 円	540,000 円	他（施設費・諸費用を含む）
ドッグスペシャリスト学科	180,000 円	854,000 円	552,000 円	他（施設費・諸費用を含む）
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ○ 学校HPにおいて、掲出を行っている。 【 掲出 : https://www.iac.ac.jp/school-report.html 】		
第三者評価の基本方針(実施方法・体制)		
○ 本校で実施した自己点検・評価をもとに、企業等評価委員・卒業生等評価委員・保護者等評価委員・高校等評価委員・専門家等評価委員等で構成する学校関係者評価委員会で評価・改善等について伺ったご意見等を校長会議等において報告・検討し、即時もしくは次年度以降の取り組みに利活用し、本校の学校運営と教育の質の向上を行っている。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
動物関連法人 役員	2025年4月1日 ～2026年3月31日	企業等評価委員
動物病院 院長	2025年4月1日 ～2026年3月31日	企業等評価委員
高等学校 校長歴任者	2025年4月1日 ～2026年3月31日	高校等評価委員
高等学校 進路関連団体役員	2025年4月1日 ～2026年3月31日	高校等評価委員
卒業生	2025年4月1日 ～2026年3月31日	卒業生等評価委員
在校生 保護者	2025年4月1日 ～2026年3月31日	保護者等評価委員
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ○ 学校HPにおいて、掲出を行っている。 【 掲出 : https://www.iac.ac.jp/school-report.html 】		
(備考)		
第三者評価は未実施であり、2026年(令和8年)11月実施予定であるため、上記表中の第三者評価に係る各項目は、昨年度に実施した学校関係者評価に関する情報を記載している。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ○ 学校HPにおいて、掲出を行っている。 【 掲出 : https://www.iac.ac.jp/school-report.html 】

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄(合計欄を含む。)について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード(13桁)	H111310300107
学校名(〇〇大学等)	大宮国際動物専門学校
設置者名(学校法人〇〇学園等)	学校法人シモゾノ学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※ 括弧内は多子世帯の学生(内数) ※ 家計急変による者を除く。		118人(74)人	114人(68)人	118人(77)人
内 訳	第Ⅰ区分	27人	23人	
	(うち多子世帯)	(－人)	(－人)	
	第Ⅱ区分	17人	12人	
	(うち多子世帯)	(－人)	(－人)	
	第Ⅲ区分	14人	19人	
	(うち多子世帯)	(－人)	(－人)	
	第Ⅳ区分(理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分(多子世帯)	21人	24人	
	区分外(多子世帯)	39人	36人	
家計急変による 支援対象者(年間)				0人(0)人
合計(年間)				118人(77)人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号)第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分(理工農)とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令(令和元年政令第49号)第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽り其他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び 専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	0人	-
修得単位数が「廃止」の基準に該当	-	0人	-
出席率が「廃止」の基準に該当 又は 学修意欲が著しく低い状況	-	-	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	-	0人
計	-	-	-
(備考)			

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の (2) のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び 専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学 又は 停学（期間の定めのないもの 又は 3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者 及び 給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は 訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	0人	-

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	25人	0人	25人
出席率が「警告」の基準に該当 又は 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	25人	0人	25人
(備考)			

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。